

韓国の統一と韓国仏教徒の役割

善光寺育英生
東京大学大学院生

金

秀娥

(韓国)

韓国に分断の苦痛が始まってから、四五年が過ぎた。四五年の長い時間の中で、南の韓国は資本主義、北の北朝鮮は閉鎖的な社会主義という、全くちがう社会の体制と思想のために、相互を敵対視して来た。

このような韓民族の現実は、韓民族自身が望んだことではなくて、世界第二次大戦以来ソ連と米国との両国の利益のために作られた所産であるのがもっと苦しいことである。

しかし、一九八〇年代以来、ソ連を始めとして、社会主義の国々が解放され、それにもなつて、世界は民主主義と社会主義の二つ両極体制を越えて、自国の利益と平和共存の時代へと変化している。

このような、世界の変化にもなつて、韓半島にも、統一の雰囲気がかんだん高まっている。韓国で、一九七二年、南と北の政治家が集まつて、七〇四南北共同声明、すなわち自主・平

和・民族の大団結の三大原則を統一の基本内容として発表した。

まず、自主の原則とは、韓民族の統一が強大国の利害によることではなくて、我々の民族の意思によって民族が主体になって統一をするということである。

二番目の平和の原則とは、戦争と武力によるのではなくて、理解と協力によって、大衆の自主的な力を集めて、統一をしようとするところにある。

三番目の民族の大団結の原則とは、思想と理念の体制の差異を超越して、分かれている民族を一つにしようとするところである。

この七〇四南北共同声明以後、韓国は、いろいろな方法を講じて統一のために努力していたが、今の世界の変化は、もっと早く統一することができるように見える。世界の変化にともなって、今まで閉鎖的な社会であった北朝鮮は、



だんだん解放しなければならぬからである。

このような民族の大きな課題を解決するため、韓国の民族宗教である仏教が何をすればいいのかは、きわめて重要な問題である。

それは仏教が人間の現実と無関係な神秘的な宗教ではなくて、人間の現実の苦悩を自覚することから出発して、その苦悩を解決することによって平和な世界を作ろうとするように、仏教は現実生きている宗教であるからである。

このような仏教の社会的役割から見ても、韓国の社会で、仏教は分断という民族的苦諦を解決して、統一した浄土の世界を作らなければならないと思う。

仏教の立場から見れば、現在、統一の障碍となつている要因が二つあると考える。

一つは、分断の四五年間、両極の体制と思想の差異からくる民族の異質感である。もう一つは、今までつづけられている軍備増強からくる

緊張感であると思う。

したがって、統一のために仏教の果たすべき具体的な努力は、まず民族同質性の回復運動と反戦反核の平和運動と、また、南と北の仏教の交流運動であると思う。

仏教は資本主義の矛盾と社会主義的短所とを克服しうる完全された思想体系を持っている。

仏教が理想とする浄土の社会は、人間が人間らしく生きる社会、経済的平等、政治的な権利が保障される社会であるからである。これは一切の苦からの解放を表している。このように、両極体制の対立を克服して、民族の同質性を回復するためには、相互の否定と対立感を越えて、元暁大師の和諍思想に立脚した浄土世界の建設が必要だと思ふ。

また、仏教は戒律の第一が不殺生戒であるように、どの宗教よりも、人間の尊厳性を強調している。

インドの Gandhi は「キリスト教では人間を愛する心を学んだが、仏教では万物を愛する慈悲の心を学んだ」と語った。

このように仏教は、人間のみにとどまらず一切の生命があるものの価値を認める平等と平和の宗教である。この仏教の平等と平和の思想にもとづいて、韓民族の統一を平和的に解決しなければならぬと思う。

今韓国では、四千万の人口の中で、約半分の二千万の仏教信者と、二万の僧侶がいる。また北朝鮮は、宗教を否定する社会主義にもかかわらず、三千万の人口の中で、約二万人程の仏教信者と、三百人程の僧侶がいるようである。

まず、南・北の仏教信者が仏陀の教えにもとづいて、両体制の対立と相互の不信を捨てて、民族愛と民族の平和、また統一のために一つにならなければならないと思う。

統一は韓民族のみんなの念願である。また、

今世界で唯一つ残っている両極体制の分断の韓民族の統一は、世界平和のシンボルでもある。だから、韓民族の仏教徒は、民族の統一と世界の平和のために、菩薩行をしなければならぬと思う。

『華嚴経』によれば、菩薩の覚りは衆生と無関係な内面の神秘から起ることではなくて、衆生と一つになるための大きな生の意志から起ることである。衆生がいなければ仏教はない。また、衆生の苦痛を解決して、永遠な平和の世界である浄土の世界にみちびく菩薩行がなければ、歴史の中で、仏教は宗教として立つ場所がないと思う。だから今の時代の菩薩は、歴史の暗黒の道を照らす光でなければならぬ。

おわりに、統一と平和のために、仏教徒の菩薩行がもとになって、韓民族の統一と平和が、必ず、一日も早くおとずれることを確信する。